

サーガ外伝 虚無の侵略

ヤチ

「ここにも・・・」アイスクイーンはそこに虚無が来たのを 知った。
「わが里に近づくことはさせぬ・・・」アイスクイーンは飛ぶ、愛すべき里の民たちを虚無から守るため。

サンリク、激しく陸と海が覇権を競う永き断崖の戦場、虚無はそこまで来ていた。

「虚無よ去れ！この里の民にはおまえは無縁の存在、去れ！」
アイスクイーンは告げる。
次ぎの瞬間、虚無はアイスクイーンの横にジャンプ、同時に虚無のドレインが発動する。

ドレインにより急速に失われたエネルギーとマナ、しかし即座にアイスブレスを放つ、凍りつく虚無。
アイスクイーンがインパクトを打ち凍りついた虚無を打ち砕こうとしたとき背後から火炎弾が・・・ハルト？

レポートで火炎弾をはなった虚無に召喚されし者の背後へ、そしてブレスト、間をおかずインパクトをアイスクイーンが打ち込む。
砕け散る召喚されし者、が次の瞬間すべてがアイスクイーンの視界から消える。
色が消え闇でもない、ただ薄い陰、いや灰色のノイズ。
アイスクイーンは思わず耳を塞ぐ。

「神と呼ばれし者よ、理解し恐れよ」
「われは存在ではない、大いなる無限の波動」
「神といえどひとつの存在にすぎぬおまえに、この虚無を消去することはかなわぬ」直接意識にアクセスしてくる虚無。
「関係ない、わが愛すべき民に禍するもの滅するのみ」

アイスダガー、アイスウェーブ、メガクラスのスぺル、もてる力をすべてぶつけるアイスクイーン、しかし虚無はそのすべてを無効化してしまう。
アイスクイーンのマナは尽きかける。

「交渉に応じよ、電子をもて遊ぶ神、アイスクイーン」
「交渉など必要ない」虚無にアイスクイーンは応える。
「魂を開放せよ、応じなければトウノの里人は消える」
無機質、そして重い虚無のコトバ。
「神とよばれる者であればわかるであろう、虚無の侵攻の意味が」
「里人を存在させたいのであれば、魂を開放せよアイスクイーン」

虚無の侵攻・・・絶望で満ちた未来が呼び寄せる宇宙の消滅。

絶対無限の無に生じた塵のような光一つでしかすぎないおのれの無力を
アイスクイーンは悟る。

「里人、わが子供たちには手をだすな」アイスクイーンは魂を開放する。

「わが子供たちよ力を集めよ、人間自らの力で明日を」

薄れ行く意識、拡散してゆく自我、色がない霧が心を満たしていく。

「子供たちに 明日を・・・」